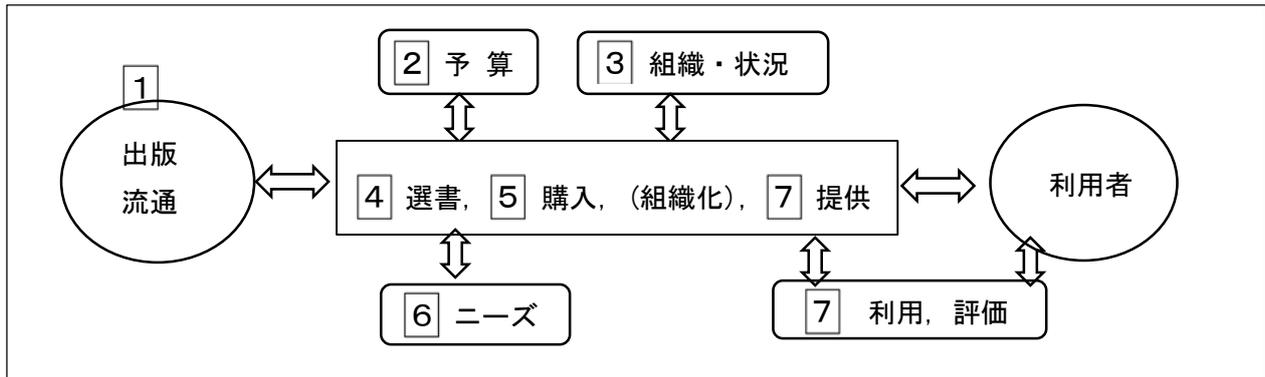


事前アンケートのなかの「知識の本の選書－課題」と「その他全般に関する意見」

青山学院女子短期大学 堀川照代



<p>例 え ば</p> <p>1 内容…ビジュアル重視, イラスト多用, 類書が多い, 分野に偏り, 子どもの発達に合ったものが少ない 出版事情…高価, セットものが多い 出版情報…情報の入手困難, 知識の本の選書案内がない 流通…書店で現物が手に取れない</p> <p>2 限られた予算のなかで最大限の選書の効果を得るには?</p> <p>3 選書に時間がとれない</p>	<p>4 ポイント…選書のコツは? 判断が難しい 選定基準, 廃棄基準, YA 資料の選書規準, 方法…選書ツールは? 現物選定ができない, 5 買い替えのタイミングは? 複本はどれくらい? 6 ニーズと図書館員の判断のギャップ, 利用状況が把握できない 7 案内の手立てが必要。ネット情報や映像資料の利用が多く購入された図書が活用される機会が少ない。学校とどのように連携して情報収集, フィードバックを受けているか。</p>
--	---

1. 出版・流通

1. 1. 対象

1. 低学年向けの優れた知識絵本がまだまだ少ない。(市区図)
2. 支援を必要とする幼児・児童・生徒に提供する知識に関する図書資料は少なく, 悩む。(特別支援)
3. 中学生向けの資料が少ない(中学)
4. 最近, 手軽に手にとれるような科学の本などが出版されているが, 製本が悪く図書館で所蔵するには難しい本がたくさん出版されている。図書館用の製本の本を出版してもらいたいと思う。(市区図)

1. 2. 内容

1. 児童の実態にあう本を探すことがむずかしい。1年生から図鑑を使いたいが, カタカナが読めない, 長さの単位がわからないという壁がある。しかし, 研究授業ということで, 担任と協働で図鑑を読むことを1学期から始めてみたが, 図鑑指導を通して, 子どもたちはカタカナが読めるようになっていった。(小学校)
2. 児童向きということで, 極端に情報の少ないのも困るし, かといって書き込みすぎているのも無理があるときどうするか。児童書の形をしていながら大人向けというのも少なくない。索引がついていれば OK というわけでもなく, 子どもが情報を集めて表現したほうがいい結果が, 本になってしまっているのも使いにくい。(小学校)
3. ビジュアル化されてきれいで見やすいが, それと科学的な事実とどうむすびつのか, 学習につながりにくい。(中学校)
4. 子どもたちが調べ学習に使える本が少ない。(目次や索引がなく, 単なるお楽しみだけの資料がある。図やグラフなどの説明よりもイラスト(アニメっぽいもの)に力を入れている資料がある。)(市区図)
5. この頃韓国からの知識の本(サバイバルシリーズなど)の人氣がとても高い。できれば自国で作った魅力ある本がほしいが, なかなかない。(古典や伝記はだんだん新しくなって, 子どもたちも受け入れはじめてきている。)学校の教科に沿った資料を求める利用者(保護者を含む)も多いが, 難しすぎて利用してもらえないことが多々ある。(教科書の参考図書も同様)(市区図)
6. 子ども達に知識を分かりやすくという視点から, マンガやイラストで表現することも多いと思うが, 担当者はマンガだからなどで選定することもあるような気がしている。同時に, 子どもがわかりやすい写真やイラストで描かれている本がや

はり少ない気がする。(市区図)

7. 知識の進歩により、視覚的にインパクトの強い本が増えたが、文章で伝える本が少なくなった。(市区図)
8. 絵本として優れていることと、内容の正確さも兼ね備えている知識の絵本は少ない。低学年向けの優れた知識絵本がまだまだ少ないこと。(市区図)
9. 実験の本の安全性は確かか。(市区図)
10. ビジュアル重視で派手なものが多いように感じる。(子どもたちが理解しやすいかどうかを考えてほしい) (市区図)
11. マンガチックなイラストを使用している本が多くなった。(市区図)
12. 工作、おりがみ、自由研究の本など、ある程度新しいものを追加していきたいが、新刊を見ても、既存の図書とかなりの部分で内容が重複しているものが多く、購入に迷う。(県図)
13. わかりやすく伝える書き手が少なくなった。学校教育の支援に重きを置きすぎて、教科書とは関係のないテーマでの本への目配りができなくなってきているように思う。(市区図)
14. 類書が多い分野がある一方で、新刊がほとんどない分野もあるようで、新刊書が一定の分類に偏ってしまいやすいように思う。(市区図)
15. 出版される本の分類に偏りがあるため、良書を選ぶことが困難。(無記入, 市区図)

1. 3. 出版事情

1. 知識の本が古くなり、いざ買い換えようとしても適当な本がない。又は探せない。(児童書のタイトルが少なくなっているのではないか?) (小中学校)
2. 調べ学習用セットものは、高価な割に内容が薄く、同じような主題のものが多い。価格を抑えてもらえば、多くの図書が購入できる。(県図)
3. シリーズものが多く出版されているため、高額となる。欲しい巻のみ購入すると購入漏れと考えられる可能性がある。選書をするメンバーでも意見の相違があるため、そのときは判断に困る。(県図)
4. 学校図書館用の知識の本が高価。内容と値段が比例しない場合もあるので、必ず中身をチェックしなければならないと思うが、なかなか中まで読む機会がない。(小学校)
5. セットものが多く、値段が高い(小学校)
6. 再購入したい本(複本がほしいとき)が品切れ等で購入できない場合があり、困ることがある。同分野の比較読みをしたいと思うが、なかなかできない。(市区図)
7. 新しい資料でないと買にくい。(欲しい本があっても新しいものでないと品切れ、絶版になっているものが多く、必要なものを揃えにくい。買った直後にもっと良い資料が出版される可能性がある。(小学校)
8. 時代と物事の進歩に出版事情がついていっているのか? インターネットで最新事情がわかる時代にあって、選書が追いついていっているのか。(小学校)
9. 出版社への要望などは、どのように伝えているか。本に挟まっている葉書で書いて送ることが多いのか。他に、何かなさっている方があれば、伺いたい。(市区図)

1. 4. 出版情報

1. 知識の本の分野では、新版の出るサイクルが長いので、新版が出るまで待つか、取りあえず今出ているものを買うか迷う。来年新版が出る、といった情報を得る方法はあるか? (小中学校)
2. 絵本の選書案内は多数出版されているが、知識の本(児童書)の選書案内は少ないため、情報収集に困っている。(県図)
3. 学校の調べ学習に左右される。情報が入ってから出版されるまでの期間が資料不足。(市区図)
4. 教文館ナルニア国から届くメルマガでの新刊情報をあてにしていたが、勤務体制の関係で今年度はその新刊情報を発信できないとのこと。かなりの痛手になっている。週に一度はナルニア国へ出向いて新刊をチェックしてみたいと思っているが、知識の本に関しては全てが網羅されているとは限らず、それを今後どのようにチェックしていくかが課題。みなさんと、そのあたりのノウハウを共有できればと思っている。(無記入)

1.5. 流通

1. 知識の本は書店での取扱（在庫）が少なく、実物を確認することができない。（県図）
2. 絵本や物語に比べると、書店などにも現物が少ないので内容の確認がしにくい。単価も3千円前後だったりすると買ってみる、というのもためらってしまう。（市区図）
3. 自館で現物選定をしていないので、リクエストが出た時など書店を利用して中身を確認しているが、児童書を多く扱う書店が少ないこと、また破損防止かビニールでパックされていて中を見られないことも悩み。（市区図）
4. 出版情報からチェックした資料を実際に確認して選書したいが、実物に会えることは1時間以上かけて都内の大型書店に行かないといけない。現物選書やブックフェアがあればよいが、資料を名指しすることもできないし苦労する。（市区図）
5. どうしても、内容を確認したい時にインターネットではなく、本を見て確認したい場合は、近隣の大型書店に行くが、中々内容を見られる機会がない。（市区図）

2. 資料購入予算

1. 限られた予算の中で、最大限の選書の効果をどうやって得ることができるか（小学校）
2. 限りある予算の中でどういう工夫をされているのか（高校）
3. 大変少ない限りある予算を、ほとんど司書一人の裁量にまかされて選書する（特別支援）
4. 探究型学習が進むと、より広範囲の分野の本を、いろんなレベルで提供する必要がある。学校の場合、さらに数も必要になる。予算のやりくりが難しい自治体も多いのではないかと。（小学校）
5. 金額が高価なので、セット購入できない（小学校）
6. どのようなタイミングで購入（買い替え）を検討したらよいか悩ましい（小学校）
7. 公立の学校図書館は自治体によってまた学校によって予算に大きな差がある。少ない予算の中で、どの分野のどの教科を中心に選書していけば良いかととても悩む。（小中学校）
8. 資料費不足のため県図書館として購入すべき図書が購入できない。外国語図書まで手が回らない。現在購入している外国語図書は、ニューベリー賞・コルデコット賞受賞作品のみ。（県図）
9. 県図書館として収集方針で網羅的収集を掲げているが、予算が削減され、実際には網羅的収集とは言えない状態である。（県図）

3. 選書組織・状況

1. 選書に時間がとれない。（県図）（市区図）
2. 出版点数が多く、読み応えのある本も多いため、すべての資料に目を通すことが難しい。（県図）
3. 時間をかけて吟味できていない（類書の検討など）、最新情報かどうかのチェックがしづらい。除架作業が追いつかない。（県図）
4. 知識絵本以外の、読み物等については、内容を全て読んで判断しているとはいえない状況にある。（市区図）
5. 集中選書なので、薦めたい本が自館にないのが歯がゆい気持ち。（市区図）
6. 最近の政治情勢を見ていると、自治体によっては、議会や教育委員会が選書の基準に口を挟んでくることも出てくるのではないかと、ちょっと不安になってくる。（小学校）
7. 学校図書館の選書を手伝うことがあるが、学校側に選書や除籍の意識・知識が足りない。（市区図）
8. 小規模校で、開館から日が浅いため、現状で図書委員会は未設置（教職員、児童ともに）。そのため、選書に関しては個別のリクエスト等に対しては図書館担当が、大量の購入に関しては教務主任が担当しているが、全体の冊数自体が大変少ないこともあり、望ましい蔵書構成になっているとはなかなか言い難いのが現状である。（小学校）
9. 中央図書館に見計らい本を集め、他の図書館の児童生徒担当者が選定会議に参加する形をとっている。選定会議前のプレ選定時間は、業務に支障が生じない時間のおおむね半日程度を基本としてあるが、館によって相当のばらつきがあるよう

に感じている。どのような選定方法、事前に本を読むプレ選定時間はどのくらい設けているのか教えてほしい。(市区図)

4. 選書(1)ーポイント・方針

1. 何をヒントにして本を選ぶべきなのか。(市区図)
2. 資料として価値のある本と、利用者からの希望の多い本、また流行による本など、限られた予算をどう使って蔵書を収集するか。職員間の価値観の違い。(市区図)
3. レファレンスブックには、辞書事典のほかにもどのようなものが必要なのか。(市区図)
4. 各館の役割をふまえた選書が難しい。良書が、なかなか出せないが、読書のきっかけ作りとして軽い本は入れるべきか迷う程度の資料がある。(市区図)
5. 児童の読書離れが、目立つ中で、どれだけ手に取ってもらえるか、興味を引けるか、尚且つ図書館資料として適しているかという点(市区図)
6. 児童書を選書して日が浅いので、まだまだ手さぐり状態。ベテランの方の選書のコツのようなものがあれば、ぜひお聞きしたい。(市区図)
7. 信頼のおける内容の本なのか、判断するのが難しい。(市区図)
8. 今までにない分野の本が出版されると、それがさほど良くなくても買ってしまうことがある。そのような買い方でよいのかどうか。(公共図)
9. データなどが記載されている本は、新しい本を入れていく(市区図)
10. 子どもが調べ学習につかえる本を選書したいと思うが、どんな本が良いのか、どんな本を揃えておけば調べ学習に役立つのか、難しい。(市区図)
11. 長く読み継がれている本と、現代を反映した本のバランスを考えて選書すること。(県図)
12. 普段から読書に親しんでいる子どもと、そうではない子どもの読書意欲を満たす選書を行うこと。(県図)
13. 幅広い分野の選書を心掛けたいと思っているが、貸出や出版の状況等により大きな偏りができないよう考慮しなければならないと思っている。(市区図)
14. 幅広い年齢層で、理解力にも差がある読み手が、掲載されている情報をきちんと理解できる内容や表現で書かれているのかの判断(市区図)
15. テーマと内容が対象に合っているか悩む。例えば、法律について簡単に分かりやすく書かれた本は、法律について調べる年齢の子には情報が少なすぎて、それより年齢の低い子にはテーマが難しすぎる、といった場合。(県図)
16. 内容の正確さや年齢に合った表現であるかが選書のポイントだと考えるが、知識不足や時間の不足で詳細まで確認することが難しい。小学生向けのものに関しては、学校で使いやすい本が目立って、子どもの興味や楽しみに応えるような本を見つけるのが難しい。(県図)
17. 子どもたちの発達レベルに合わせた選書。さらに同じテーマでも様々なバリエーションの本を購入計画の中で選書していくこと。偏って資料が少なかったりすると選書しにくい。図書予算の少なさ。(小学校)
18. 子どもの成長に応じた知識の本を選ぶのが難しい。現在、学校での調べ学習用の資料が多く出版されているが、同じようなテーマのもが増えてきていて、同一テーマである場合、何を購入すべきかの判断に迷う。(無記入)
19. 自分は教員ではないので、憶測でしか言えないが、授業で学習したことと同じようなことが書いてある本を探すのは難しいような気がする(高校)
20. 可愛い絵、写真だけにまどわされて、肝心の内容がおろそかになっている本を選びそうになってしまう。(小学校)
21. 社会情勢に応じて内容が変化していく分野のものに対する判断。学校毎に異なるニーズに合わせるむずかしさ。総合的な学習で用いる教材など次年度以降の活用の有無について。(小学校)
22. 世間一般的に読書といえば、物語と思われがちだが、現在学校図書館に求められているのは「知識の本」の充実だと思う。(小学校)

23. まずは、自分で目を通し、読んだ後に選書するように心がけているが、読み切れない本もある。子ども達の興味やリクエストは映画・テレビ・コミック・インターネット上で得られた情報そのままであることも多く、大人・子どもの本の境界線も曖昧になってきている今、どこまで小学校図書館に購入してよいのか、悩むことが多い。(小学校)
24. 内容の正確さや質の判断が難しい。(小学校)
25. 知識本の選書と廃棄基準(廃棄も選書と深いつながりがある)地域資料の収集と選書(市区図)
26. 「選書」というと、購入等新しく蔵書に加えることの方に目が行きがちで、もちろん次々に出てくる新しい本をどう選び、蔵書に加えるかはとても重要なのだが、収蔵能力に限りのある図書館にとっては、新しい本を蔵書に加えた分、除籍する本を選ぶという意味での「選書」が問題になってくる。除籍基準を設けていても、一般書でもかなり迷って除籍をするのだが、特に児童書は、旧版や訳の違う古いものを取っておくか、知識の本は内容がどんどん古くなっていくといっても他に代えがきかないものもあり、状態だけで判断できない部分も多く、本当に除籍してしまってもよいのかなど、少ない職員で判断する中でいろいろと迷ってしまうことが多い。除籍する本を選ぶという面でのポイントや、気を付けていることなど、お聞かせいただければありがたい。(無記入)
27. 他の図書館などの選書基準を聞いてみたい。どんな児童書を購入するようにしているのか、どのような児童書が子どもの学習に役立つのか、知りたい。(市区図)
28. 都道府県図書館の選書基準をうかがいたい。また、今後、学校図書館を支援するためにも、学校図書館の選書基準を教えてください。(県図)
29. 基準がわかりづらい。基本図書は古びた感じが強く手に取られづらい。(市区図)
30. 児童担当と並行してヤングアダルトを担当している。ヤングアダルト選書の際に選定基準が明確でないこと、一般書・児童書どちらからも本が出版されることから、線引きに悩んでいる。もしヤングアダルトの基準をつくっている図書館があれば、基準をご教示願いたい。(県図)
31. 今年度から中学と兼務になり、試行錯誤しながら選書をした。中学校の選書で、読み物と知識の本のアドバイスをお願いしたい。先生や生徒のリクエスト以外は、ほぼ1人で選書をしている。選書基準はどんなものがあるのか？小・中学校を教えてください。(小中学校)

4. 選書(2) 一方法

1. 資料そのものを見る機会が少なくなってしまったので、内容の確認ができず、購入の判断が難しい。(県図)
2. 同様の内容のシリーズ図書が発行されたときの選択(特に同時期に発行されたとき)。絵本、読みものに比べて現物で比較できる機会が少ない。(市区図)
3. 現物選定の機会が足りない。(市区図)
4. 現物の見計らいができない(市区図)
5. 来年度から、現物見計らいがなくなることから、他の図書館ではどのように選定しているのかお聞きしたい。(市区図)
6. 図書館現場にいる人たちが、実際に手にとって選書の検討ができないところ。全点案内に記されたわずかな情報で選書しているので、ぜひ手にとって中身を見る機会が作れればと思う。(無記入)
7. 小規模図書館なので、職員が少なく児童書担当が複数人いないこと。また、見計らいなどで現物を確認したいと思うが対応してもらえないため現物を見るのがほとんどない状態で決めなければいけないこと。知識の本で高価なものは出版された時にすぐに購入しないでTRCのフェアなどでまとめてみる事ができる時に中身を見てから購入することも多い。出版のタイミングがずれると購入できなかつたり、現物を確認しないで購入してしまうこともある。現物を見る機会がもっと頻繁にあるといいと感じている。(市区図)
8. 学校の図書担当は校内の蔵書を把握せず、展示会やカタログのみで選書を行う傾向があり、複本になってしまうことや、他の良書と出会う機会が少ないように感じている。(小学校)
9. 読まずに購入する本の選書について(小学校)
10. 定期的な選書は週刊全点案内を見て行う間接選択なので、知識の本はどうしても中を見て決めたいと思うことから、読み物や絵本に比べていったん保留になることが多く、所蔵するのが遅れがちになる。(市区図)

11. 選書をする際に参考になっているツールを教えてください。また、除籍はどのようにしているかも伺いたい。(公共図)
12. レビュースリップを作成するべきだと思っているが、できずにいる。人手、時間がない中、どのように作成されているのか、何か工夫されていることがあるのか、お伺いしたい。(市区図)
13. 選書基準はあるが、物語や絵本の選定に偏りがち。調べものや学校の授業で、実際に役立っている知識の本を知りたい。学校図書館での、知識の本の選定方法を知りたい。(市区図)
14. 小学校では学年によって読解力、理解力等に大きな差があるため、本の内容をしっかりと把握しないと、使用したい学年とミスマッチした本を選書してしまうことがある。展示会等でじっくり検討する時間ももっとほしい。各出版社のカタログでは把握しきれないことが多い。(小学校)

4. 選書 (3) 一能力

1. 基本図書についての知識を持たないと比べて選ぶことができない。特に、知識の本については知識の積み重ねができていない。(県図)
2. 内容の正確さ、著者の信頼性を確かめることが難しいと感じる。今どきの常識、情報を取り入れるのがおいついていない。(恐竜に毛が生えていたとか、宇宙開発など分野が幅広いので、新聞などを読むようにしていても、自信がもてない。)(市区図)
3. 理数系の分野などは、専門的知識を有するので、選書が難しいと感じる。(県図)
4. 専門的な内容になると、記述が正しいものなのかどうかの判断が難しい。(県図)
5. 内容が古くなったもの(新しい事実が発見されたとか、いままで正しいとされていたことが間違いであることがわかった等)の判断ができず、それに合った選書が除籍できないこと。(公共図)
6. 見極める力が足りない。(市区図)
7. 選書担当の自分が、よくわからない分野の選書に限界を感じている。知識の本は、興味深いテーマであっても内容が難しいことも多く、対象年齢に迷う。(県図)
8. 選書をスキルアップするために、どんなことをしたらいいか。(たくさん読むことは、もちろんかと思うが。)(県図)
9. 学校図書館の予算が少ないのでこれしか入れられない、という時の「これ」が正解だったのか悩む。兼任で任期も短いため間の中手探りで砂漠に水を撒くよう。もっと自信を持って先生方にすすめたい。(無記入)
10. 他の業務におわれ選書がやつつけ仕事になってしまっている。何となく新しい図書が入って活気は出るのだがもやっとした感じが残る。派遣任期が終了してしまった学校には司書がいなくなってしまうのだから遠回りでも選書のきちんとした方法を確立させて伝授した上で次の学校へと移動したい。そのための知恵があれば知りたい。(無記入)
11. 半年前に児童図書担当になったこともあって、児童書全般への知識が不足している。特に、1~8分類の本については、利用者のニーズをつかみきれないところもあり、選書が難しい。児童図書を選書するにあたってポイントにするべき理念等についても勉強不足な面が大きいので、他の図書館の児童図書の状況について伺いたい。(県図)

5. 購入

1. 新刊書の購入と基本図書の買い換えの比重。(県図)
2. 新しい本を買う事と、基本図書のバランスを時間ではどのようにしたらちょうどいいのか悩みながら選書している。(市区図)
3. 知識の本と読み物の本との割合について。(県図)
4. 辞書・事典類はどれくらいのペースで買い替えていけばよいか?(市区図)
5. 図鑑や事典類の購入・入替えのタイミング。特に科学関係は情報の更新があることを考えると定期的な買い換えが望ましいが、判断が難しい。(県図)
6. どこまで、内容の新しさを求めるべきか。買替のタイミングについて知りたい。(市区図)
7. 複本の購入はどの程度必要なのか。(市区図)
8. つばさ文庫、電撃文庫、ノベライズ本、映画やコミックの本をどの程度購入するか。低・中・高学年用の本の配分。良書と言われる

本と、子どもたちの読みたい本とのバランスについて。予算が決まっているだけに、より子ども達に役立つ本、良書、楽しめる本を選ぶのに苦労している。(小学校)

9. 予算が限られている中で、類書をどの程度そろえるかを悩んでいる。現物選書ができないので、絵本や読み物などでも実際に納品されてから「考えていたものと違っていた」ということもあり、限られた情報の中で選書することの難しさを感じている。(無記入)

6. ニーズ

1. 司書が必要と思う本と、教員が欲しい本とのギャップ。リクエストにこたえていると分野に偏りが出てしまう。(小中)
2. 授業内容の把握(小学校)
3. 子どもたちが読みたい本と、こちらが読んでほしいと思う本が異なると感じることがある。バランスの取れた選書をするために、どのようなことに心掛けるべきかご意見をお伺いしたい。(市区図)
4. 利用対象、状況が明確にならないと、選書ができない。直接子どもたちに接する機会が少ない県図書館の職員には、どのような状況で利用されるのか情報が少ないため、ニーズにあった選書ができていないか不安である。(県図)
5. 学校の授業内容などを把握しておきたいと思いつつ、なかなかそまでの情報収集ができていない。(市区図)
6. 利用者のリクエストに積極的に応えたいという気持ちと、児童書の選書基準を大切にしたい気持ちの間で、いつも迷いながら選書をしている。ディズニーの本やキャラクター本、テレビ・映画のノベライズは、当館では基本的には選書対象外となっているが、他の館の状況を教えていただきたい。(市区図)

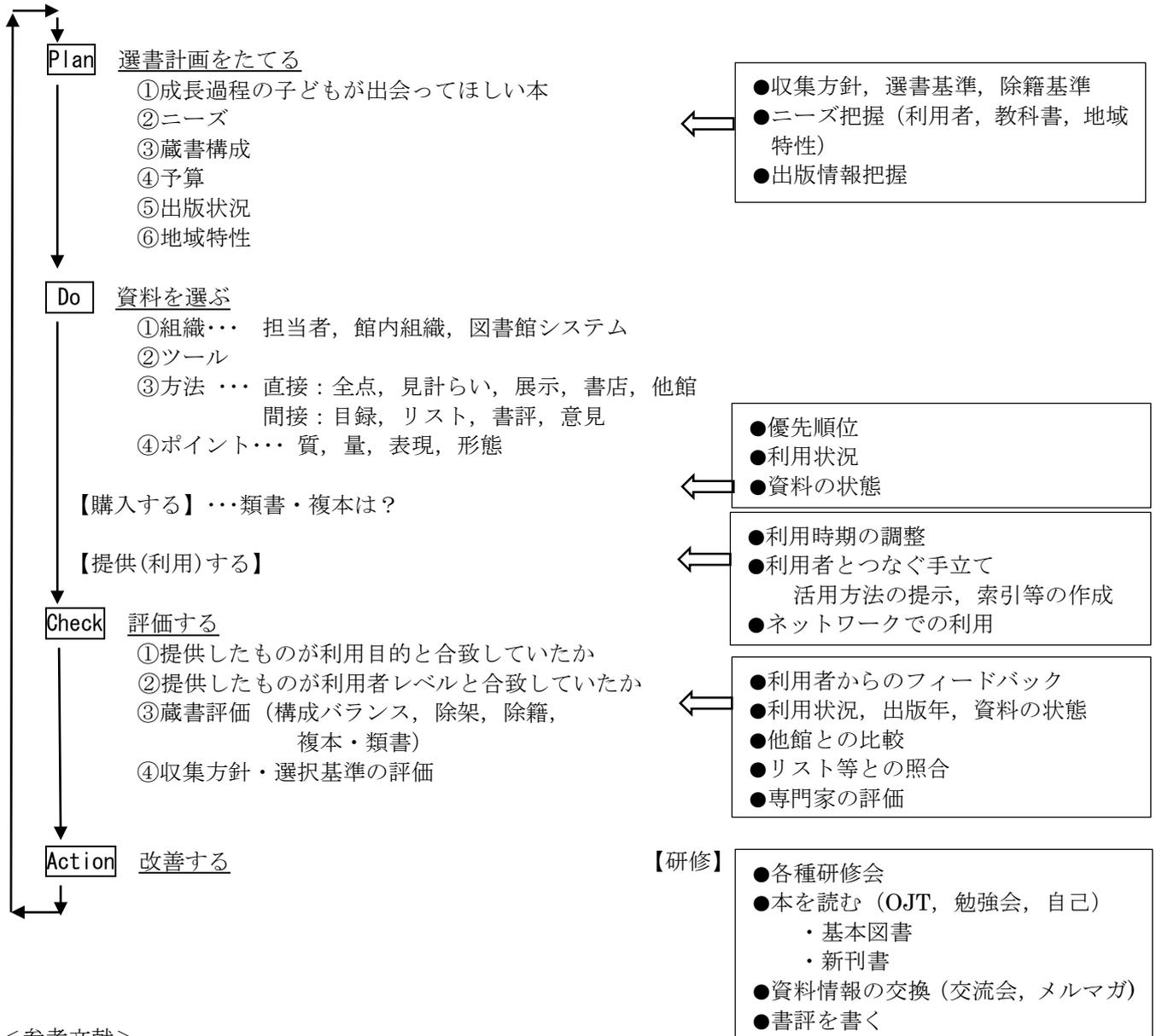
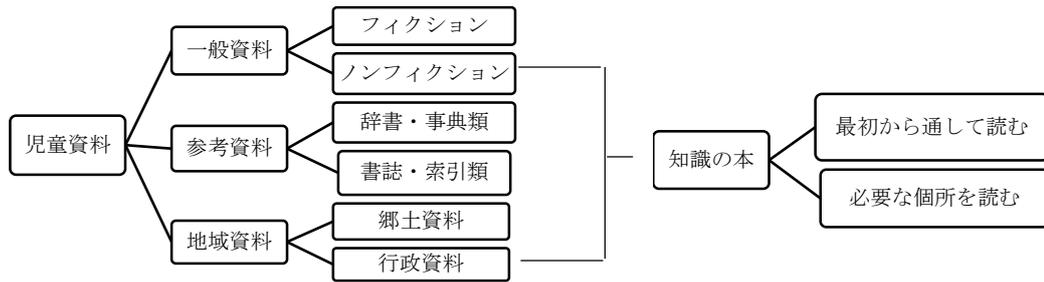
7. 提供・利用・評価

1. 保育所・幼稚園のニーズを調査しているか？ 選書に活かしているか？ (市区図)
2. 児童書の担当になってまだ1年なので図書館にとって必要な本とは何なのか、考えることも多い。選書とともに除籍についても貸し出し回数で判断されることも多く、それでいいのかと思うこともある。(市区図)
3. 読んでほしいと思う本とリクエストのギャップ。質がいいと思われる本はやはり案内の手立てとセットでないと生きてこないという点。(小学校)
4. ネット情報と比較すると新鮮さに欠ける点で、教師や生徒たちからは魅力が少なく、活用されにくい。また、教科書や副教材の情報、テレビなど映像資料の活用で十分と考える教師がほとんどで、購入した図書が活用される機会が少ない。(中学校)
5. 学校の授業や宿題などで毎年必要とする具体的な資料、データの把握と、使用者のフィードバック(どのような資料がどのように役立つのかなど)(市区図)
6. 小中学校の児童生徒が必要とする資料について、学校とどのように連携して情報収集、フィードバックを受けているか？ 学校司書・教諭・児童生徒からの情報収集、フィードバックの受け方、活かし方。(市区図)
7. 学校支援図書の貸し出しをしているが、テーマや時期が重なり、冊数や期間を制限しながら行っている。(公共図)
8. 学校からの調べ学習の依頼が重なり、本が足りなくなることがある。(市区図)
9. 偶然あいてしまった時間に1年生が多摩川探検に出かけるという。管理職の了解を取り、同行した。一緒に虫を捕まえたのも楽しかったが、どんなところで、どうやって捕まえたのかわかったのが大収穫だった。早速、その日の午後、図鑑や昆虫の本を総動員して、ある学級の子どもの捕まえた虫の名前調べを教室でやってみた。講師で空き時間の先生にも来て頂いて、大人三人で30匹の虫と格闘した。同定の難しさを実感した。結局、多摩川の水辺の学校が作ってくれた資料が一番頼りになったが、読み仮名もない資料で大人三人でも足りなかったくらい・・・低学年の調べ学習の難しさを再認識した。「知りたい！」というまっすぐな思いに応える本が欲しい。

勤務校では、資料が足りない時には、公共図書館、市内の小中学校から資料を集めることができる。公共図書館には、書名、出版社名、資料コードを学校貸出申込書に書き、FAX で送信して貸出を依頼するが、学校間は書名で貸出を依頼するか、「テーマ」や学年を知らせて貸出を依頼することになっている。こうして借用した本が選書の参考になる。現物に当たるには、展示会に行くか、書店や図書館に行くしかないが、借用した本で優れた物は、すぐ発注するか、メモをとり、翌年にまわすようにしている。(小学校)

改めて「知識の本」の選書を考える

「児童図書館にやってくる子どもたち，母親たち，教師たちとわたりあうためのたったひとつの武器は，子どもの本についての知識だけ」 渡辺茂男『幼年文学の世界』日本エディタースクール出版部，1980，p.228



<参考文献>

1. 『児童図書館サービス2 児童資料・資料組織論』日本図書館協会 2011 (JLA 図書館実践シリーズ19)
2. 『がんばれ！ 児童図書館員』杉山きく子 本作り空 Sola 2014 (特に p.61-82, p.262-281)
3. 『学校図書館におけるコレクション形成：国際子ども図書館の中高生向け「調べものの部屋」開設に向けて』国際子ども図書館 2014 (国際子ども図書館調査研究シリーズ No.3)
4. 『児童サービス論』 JLA, 樹村房, 学文社, 勉誠出版, 学芸図書などのテキスト
5. 全国学校図書館協議会の Web ページに「全国学校図書館図書選定基準」などが掲載されている